

[キュウリ用隔離栽培システムの開発と生育管理技術の確立]
抑制キュウリのベンチ型隔離ベッドにおける品種および給水シートの比較

野口 貴・海保富士男・沼尻勝人
(園芸技術科)

【要 約】抑制キュウリの子づる4本仕立てベンチ栽培に有望な品種は「超・彩軌」である。クリプトモスM培地に適した給水シートはジャームガード(2枚重ね),またはアクアサプライ(SR180)であるが,ヤシ殻系培地での検討が必要である。

【目 的】

キュウリの隔離栽培技術を開発するため,ベンチ型隔離ベッドを用い,培地,防根透水シート,培地量,根圏の範囲,給肥・給液方法,接ぎ木や台木品種の影響などについて調べてきたが,給水シートについては未検討であった。そこで,抑制栽培における品種検討に並行して給水シートの比較を行い,隔離栽培技術を確立するための資料とする。

【方 法】

2012年7月31日に台木「ゆうゆう一輝(白)」と「チーター節成」以下5品種を播種し,呼び接ぎ後,8月7日にベンチ型隔離ベッドに定植した。品種比較では培地にココユーキオールド(2作目),給水シートにジャームガードを用いた。給水シートの試験では,ジャームガードのほかにアクアベール,揚水シート,アクアサプライ(SR180),ジャームガード(2枚重ね)を供試して試験区とし,クリプトモスM培地(2作目)で「アルファ節成/ゆうゆう一輝(白)」を栽培した。いずれの試験も株間80cm,2条の栽植とし,子づる4本仕立てとした。肥料はタンクミックスA&Bを生育に応じて施用したが,総窒素量は株あたり32.0g(品種比較試験)および23.8g(給水シート比較試験)とし,週あたりの施用頻度を2~3回とした。

【成果の概要】

1. 5品種の収量と収穫果数をみると「超・彩軌」が最も多く,「チーター節成」がこれに続いた(図1,2)。いずれの品種も10月下旬~11月上旬に収穫の谷間があった。
2. 生育状況を見ると,「アルファ節成」で子づるが長く,節数も多かったが,着果率は「超・彩軌」が高く,「チーター節成」がこれに続いた(図3)。
3. 給水シートについてみると,収量はジャームガード(2枚重ね)で高かった(図4)。ただし,旬別収穫果数を詳細にみると,ジャームガード(2枚重ね)は時期的な変動があり,曲がり果が多かった(図5,6)。旬別の可販果が安定して高いのはアクアサプライ(SR180)であり,次いで,アクアベール,ジャームガードとなった。
4. 給水シートと生育との関係を見ると,子づる長,節数ともにジャームガード(2枚重ね)で高かったが,着果率は30%程度で低かった(図7)。
5. まとめ:ベンチ型隔離ベッドにおける抑制キュウリの子づる4本仕立て栽培に有望な品種は「超・彩軌」であり,次いで「チーター節成」である。クリプトモスM培地に適した給水シートはジャームガード(2枚重ね),またはアクアサプライ(SR180)と考えられるが,ヤシ殻系培地での検討が必要である。

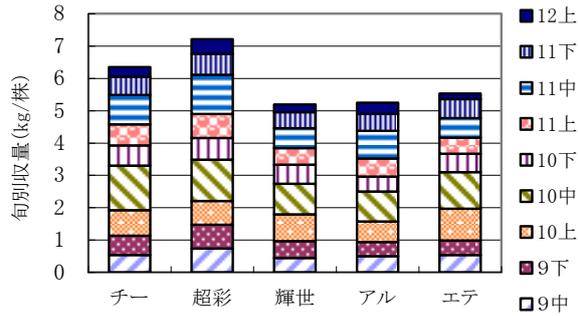


図1 抑制キュウリ5品種の旬別収量
品種名:チー(チーター節成),超彩(超・彩軌),輝世(輝世紀),アル(アルファー節成),エテ(エテルノ)

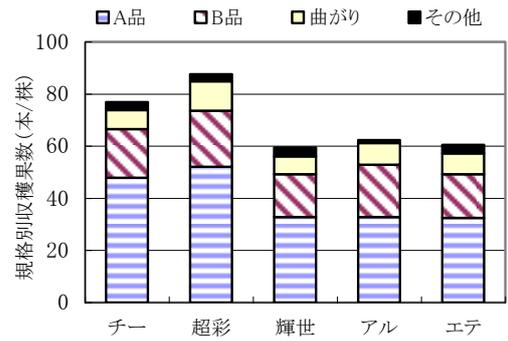


図2 抑制キュウリ5品種の規格別収穫果数

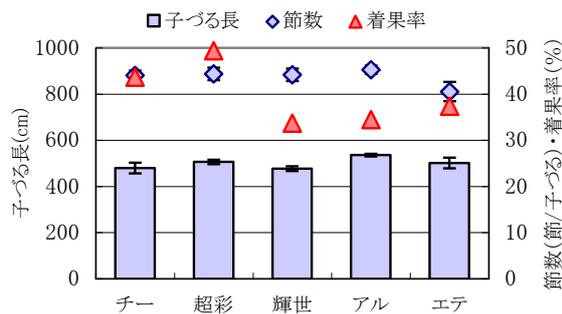


図3 キュウリ5品種の子づる長, 節数および着果率
着果率=収穫果数/(子づるあたり節数×3)×100 (2012年8月調査)

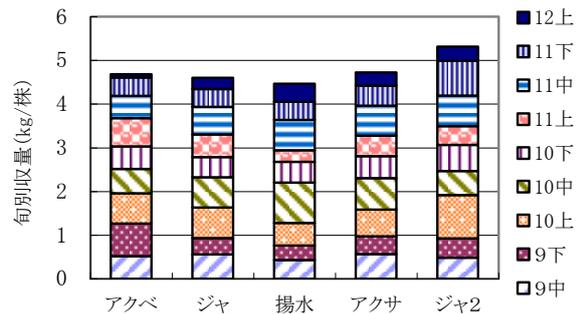


図4 給水シートの種類が旬別収量に及ぼす影響
凡例:アクベ(アクアベール), ジャ(ジャームガード), 揚水(揚水シート), アクサ(アクアサブライ), ジャ2(ジャームガード2枚重ね)

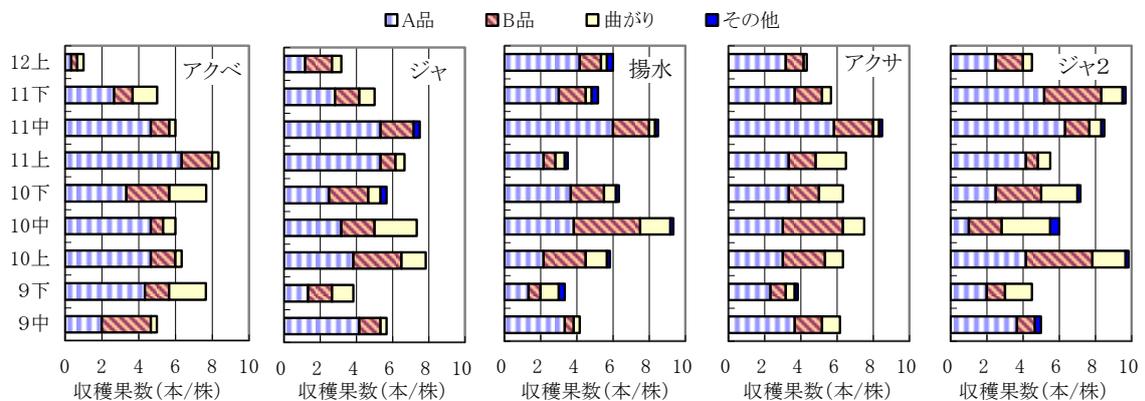


図5 吸水シートの種類が旬別収穫果数に及ぼす影響

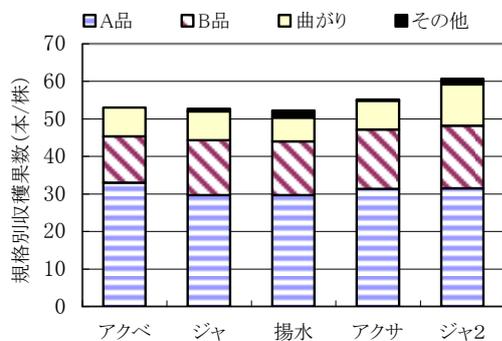


図6 給水シートの種類が規格別収穫果数に及ぼす影響

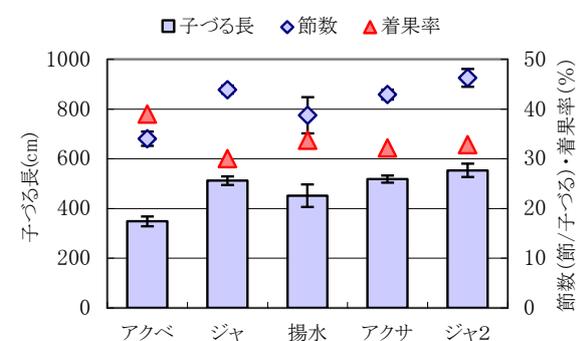


図7 給水シートの種類が子づる長と節数に及ぼす影響